

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330113

研究課題名（和文）現代社会における統制と連帯：階層と対人援助に注目して

研究課題名（英文）The control and solidarity in modern society
focusing on strata and human services

研究代表者

景井 充（KAGEI MITSURU）

立命館大学・産業社会学部・准教授

研究者番号：30340483

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：承認、分配、階層、ケア、心理主義

1. 研究計画の概要

今日の社会では、社会全体の個人化、心理主義化、文化の多元化と消費の多様化に見られるように、社会の「液状化」と「連帯」の喪失といった、「社会的なるもの」が失われていく事態が進行しつつある。

それが顕著に表れる領域として、まず第一には階層間格差による連帯の喪失、第二には、ケアの個人化とアディクション等の様々な病理の登場が挙げられるだろう。それは、他の階層間のみならず、同一階層間での「他者」へのまなざしを消失させ、またしばしば、ケアを個別化・自己責任原則へと帰着させつつある。

本研究は、主として階層分化、対人援助と社会の「液状化」との関連を実証的に解明すると共に、それを元にした現代社会での新しい「連帯」の社会理論の構築を目指すものである。

階層分化と個人化、ケアの心理主義化の中で争点と立ち現れる承認構造を、プロジェクトメンバーの背景を生かしつつ、個別具体的な事象に定位しつつ、新しい「社会連帯」の理論構築につながることも構想するものである。

2. 研究の進捗状況

2008年度は5回、2009年度は7回、2010年度も7回の研究会を開催し、予定していた研究スケジュールに従って順調に研究活動を進めてきている。

また、平成22年度には、本研究活動の大きな柱である社会調査（近畿地方における調査票調査）を実施し、データ解析と社会学的知見への反映を進めつつある。

本研究は、現代日本社会の「液状化」が進

展する中での社会的階層分化と個人化、そしてケアの心理主義化との関連を、社会調査を通じて実証的に解明すると共に、現代日本社会のそうした現状を踏まえ、新たな「社会的連帯」の可能性を探求することにある。すなわち、社会学の普遍的テーマである「社会的なるもの」の喪失と再生を、「承認」「分配」といった鍵概念を用いながら、経験的次元で確認し構想することにある。

本研究は、近畿地方を対象に実施した調査票調査を通じて、理論的探求とその批判的検討を踏まえた実証的段階に入っており、着々と研究課題に取り組んでいるところである。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

上述の通り、本研究においては、研究活動の順調な進捗により、所期の研究目標・内容を確実に達成することができているところである。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度となる本年度は、プロジェクトメンバー全員が参加する研究会を精力的に開催し、本研究の二大プロジェクトである、「階層化とライフスタイル」「心理主義化とケア」について、昨年度実施した定量・定性調査の分析を行い、理論的課題の整理と検討に取り組む。また、メンバー各自が分担する補完的テーマについても、上記二大プロジェクトに関連させながら研究活動を進め、最終報告にまとめる作業に取り組む。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 34 件)

崎山治男、心を求める社会、社会学評論、査読有、61-4 巻、2011、pp.440-454

中井美樹、Social Stratification and Consumption Patterns: Cultural Practices and Lifestyles in Japan、New Perspectives in Statistical Modeling and Data Analysis、査読有、forthcoming

大谷いづみ、Good Manner of Dying as Normative Concept: Autocide Granny damping and Discussions on Euthanasia / Death with Dignity in Japan、International Journal of Japanese Sociology、査読無 < 依頼 >、19、2010、pp.49-63

天田城介、老いをめぐる政策と歴史、福祉社会学研究、査読有、7 巻、2010、pp.41-59

景井充、現代日本における閉塞の構造 - “道徳的包摂” の視点から、査読無、受理済

〔学会発表〕(計 31 件)

崎山治男、仏教ホスピスの可能性と限界、日本社会学会、2009.10.12、立教大学

中井美樹、Socio-economic and Gender Differences in Voluntary participation in Japa、German-Japanese Workshop, Karlsruhe Institute of Technology、july20-21、2010、Karlsruhe Institute of Technology

大谷いづみ、生命倫理教育の再構築、日本生命倫理学会シンポジウム、生命倫理教育の再構築、2009.11.15、東洋英和女学院大学

天田城介、老いをめぐる時空間、日本心理学会シンポジウム、老いをめぐる時空間 その身体と社会、2009.8.28、立命館大学

景井充、現代日本における閉塞の構造 - “道徳的包摂” の視点から -、唯物論研究協会大会シンポジウム、怒りと批判の獲得 — 現代社会における感情と正義、2008.10.25、首都大学東京

〔図書〕(計 45 件)

崎山治男、社会学のつばさ、ミネルヴァ書房、2010、pp.187-202

大谷いづみ、ケアという思想、岩波書店、2008、pp.195-210

大谷いづみ、メタバイオエシックスの構築へ 生命倫理を問い直す』N T T 出版、2010、pp.207-233

天田城介、当事者をめぐる社会学調査での出会いを通じて、北大路出版、2010、pp.121-139

天田城介、老い衰えゆくこと の社会学